

安田医学賞受賞者

受賞年月	氏名	所属	研究課題
令和07年度	柴田 龍弘	東京大学医科学研究所 教授	DNA損傷性腸内細菌による新たな発がん分子機構とその疫学要因の解明
令和06年度	牛島 俊和	星薬科大学 学長	発がんの素地測定によるがん予防効果評価法の開発
令和05年度	佐藤 俊朗	慶應義塾大学医学部 教授	オルガノイドを用いたヒト臨床がん生物学の理解
令和04年度	西川 博嘉	国立がん研究センター研究所腫瘍免疫研究分野 分野長	がん微小環境の免疫抑制機構を標的とした新規がん免疫療法の開発
令和02年度	吉村 昭彦	慶應義塾大学医学部微生物学免疫学教室 教授	T細胞の疲弊化のメカニズム解明とその解除による新規抗腫瘍免疫療法の開発
令和元年度	的崎 尚	神戸大学大学院医学研究科 生化学・分子生物学講座シグナル統合学分野 教授	がん細胞の生存・維持の分子機構の解明とその臨床応用
平成30年度	中山 敬一	九州大学生体防御医学研究所 主幹教授	次世代プロテオミクスを用いたがん代謝の解明と治療標的の決定
平成29年度	一條 秀憲	東京大学大学院薬学系研究科 教授	ASKファミリーを基軸としたストレスシグナルによるがん転移制御
平成28年度	菊池 章	大阪大学大学院医学系研究科 教授	Wntシグナルの異常による発癌機構を基盤とした新規抗癌剤の開発
平成27年度	宮園 浩平	東京大学大学院医学系研究科分子病理学 教授	がんの浸潤・転移における上皮間葉転換の役割に関する研究
平成26年度	西田 俊朗	国立がん研究センター東病院 院長	分子標的治療薬に対する獲得耐性機構の本態解明とその克服方法の開発
平成25年度	後藤由季子	東京大学分子細胞生物学研究所 教授	がん浸潤・細胞運動に関わるAktの選択的な機能制御機構の解明
平成24年度	野村 大成	独立行政法人医薬基盤研究所 プロジェクトリーダー	放射線被曝による継世代発がんに関する研究
平成23年度	間野 博行	自治医科大学 教授	肺がん原因遺伝子EML4-ALKの発見と分子標的治療法の実現
平成22年度	高井 義美	神戸大学大学院医学研究科 教授	細胞接着分子によるがんの進展機構の解明とその治療法開発への応用

* 平成22年度～令和2年度 安田医学賞（研究助成）